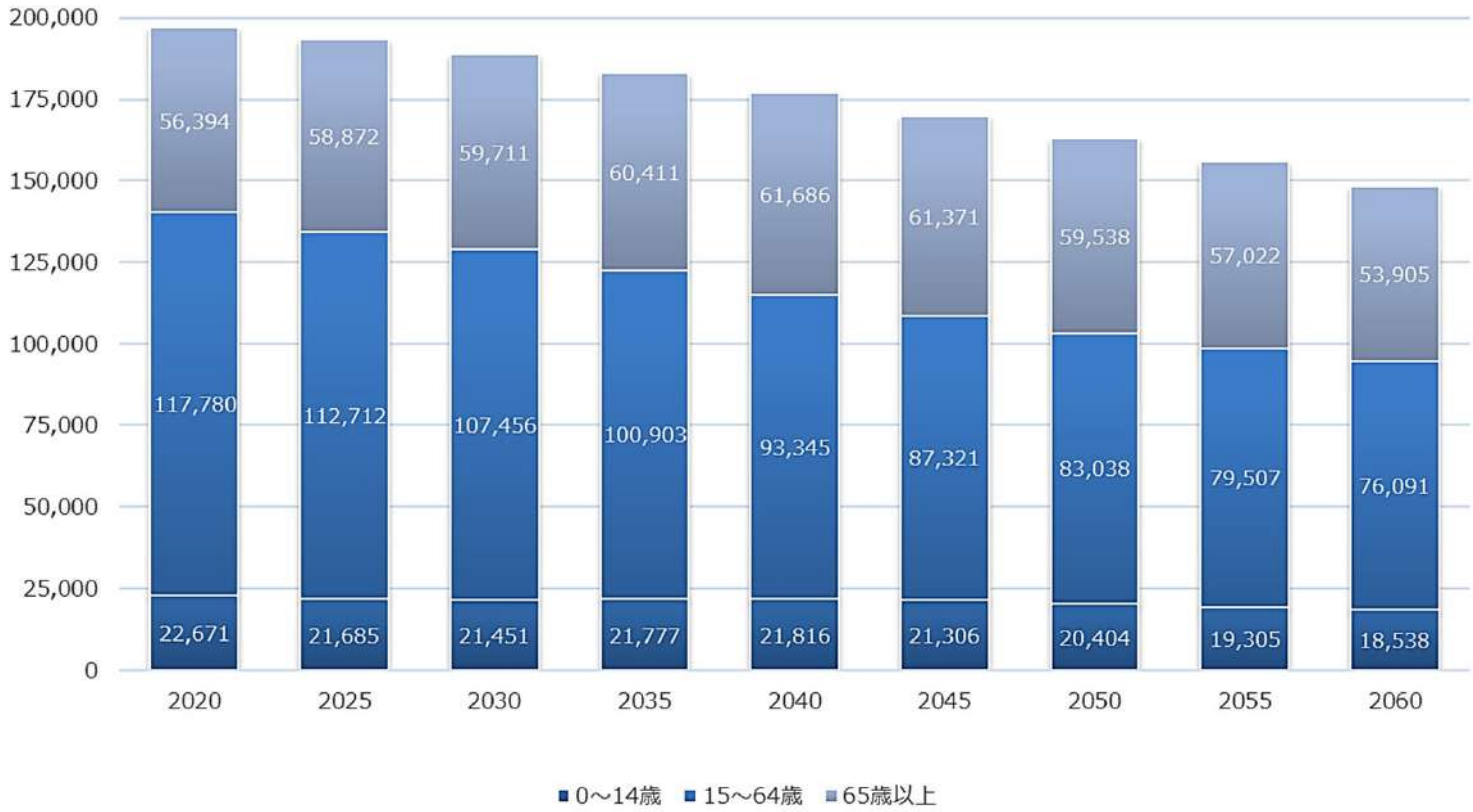
Ⅱ　熊谷市の農業などの動向

(1) 人口推計

- 人口は、2020年から2060年にかけて4.8万人減少し、14.9万人(2.5割減)
- 生産年齢人口*1は、2020年から2060年にかけて4.1万人減少し、7.6万人(3.5割減)
- 高齢化率*2は、2020年28.6%だが、2060年は36.3%

＊1　生産年齢人口：15～64歳の人口
＊2　高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口の割合

＜年齢3区分別の人口推計＞

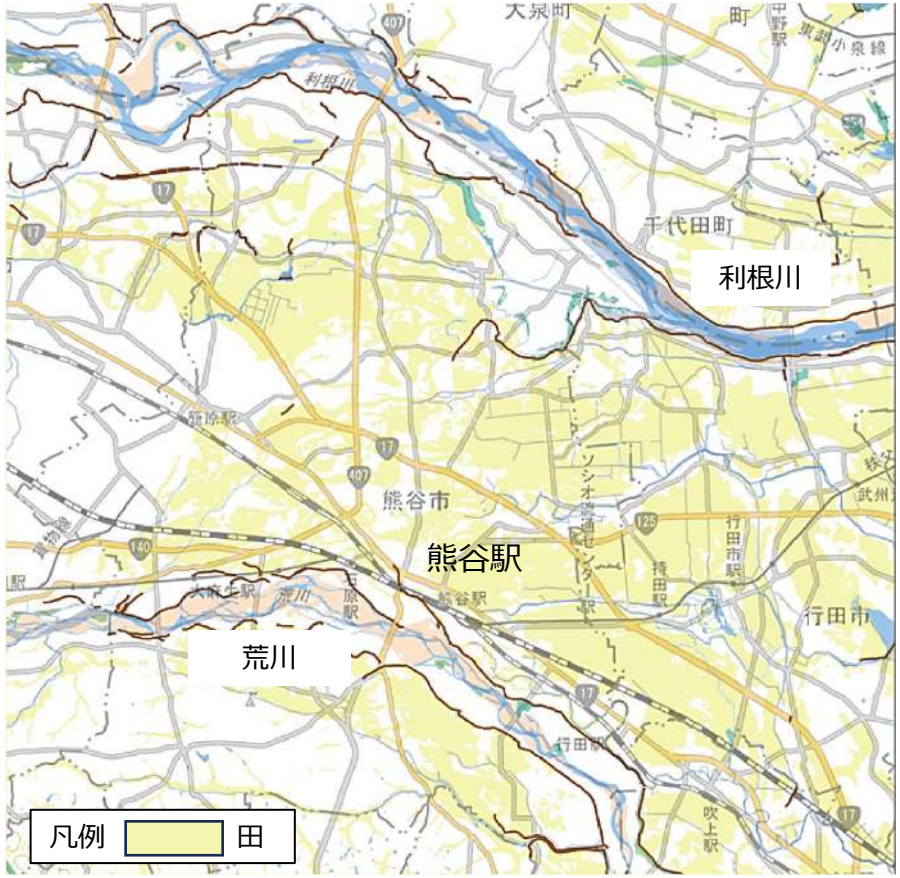


出典　第2期熊谷市人口ビジョン・総合戦略(令和2年3月)より

(2) 土地の成り立ち、立地

- 荒川と利根川に挟まれた立地で、明治期、大半は水田となり地下水脈も豊富であった
- JR熊谷駅周辺、籠原駅周辺、妻沼地域、大里地域、江南地域が拠点となり構成されている

熊谷市明治期の低湿地分布図



出典：地理院地図より

熊谷市目指すべき都市の骨格造

出典：熊谷市立地適正化計画(R4.3)より

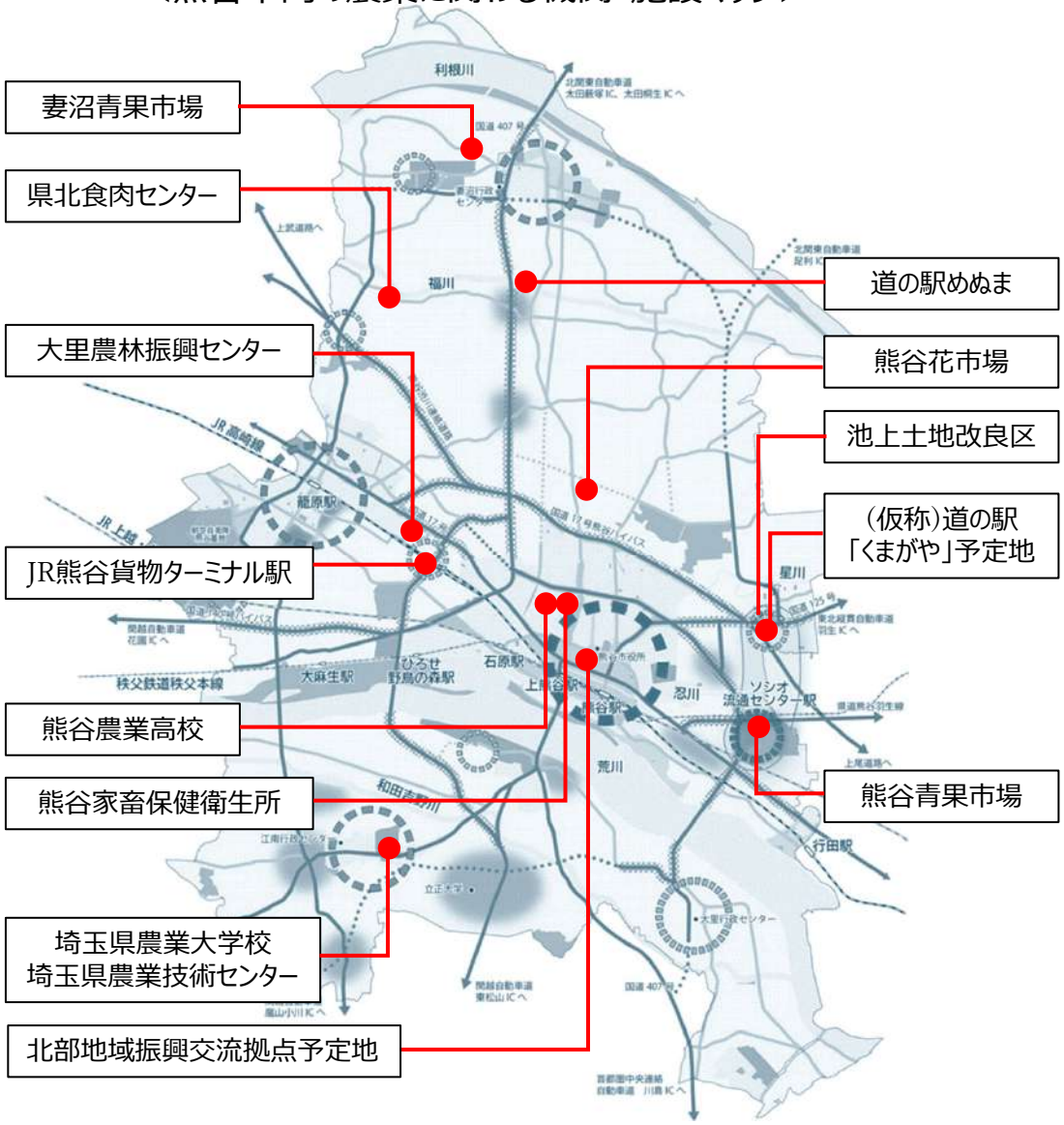
(3) 主要な農業施設等

- 熊谷駅、籠原駅周辺を除いた市域の多くは、市街化調整区域となり、埼玉県の農業関連施設である埼玉県農業大学校をはじめとし、埼玉県農業技術センター、埼玉県立熊谷農業高校など農業振興に関わる機関が集積している

＜熊谷市内の農業に関わる機関・施設等＞

- 埼玉県農業大学校
- 埼玉県農業技術センター
- 大里農林振興センター
- 県北食肉センター
- 熊谷家畜保健衛生所
- 埼玉県立熊谷農業高校
- 熊谷青果市場（地方卸売市場）
- 道の駅
- JAくまがや直売所

＜熊谷市内の農業に関わる機関・施設マップ＞

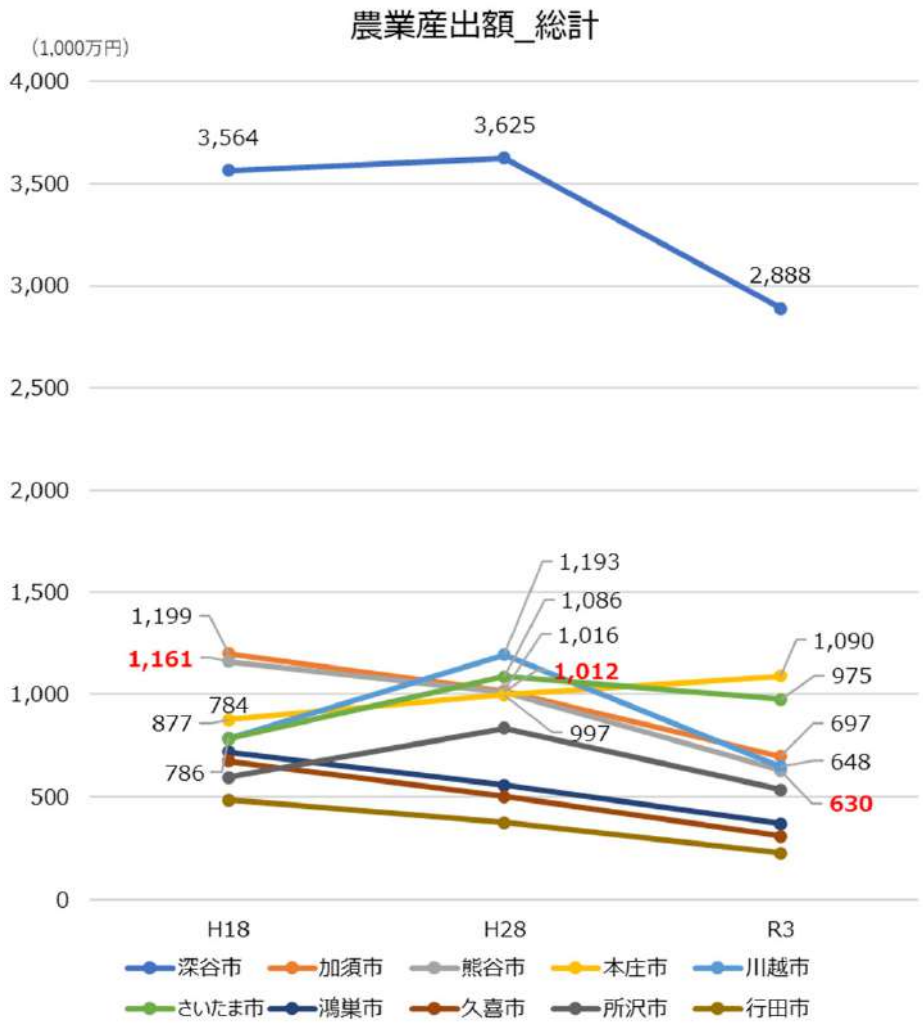


出典：第2次熊谷市総合振興計画　後期基本計画より
流通研究所が作成

(1) 農業産出額の推移

① 総計

- 熊谷市の農業産出額は平成18年度は116.1億円と県内第3位、平成28年度は101.2億円と県内第5位、令和3年度は63.0億円と県内第7位となっている



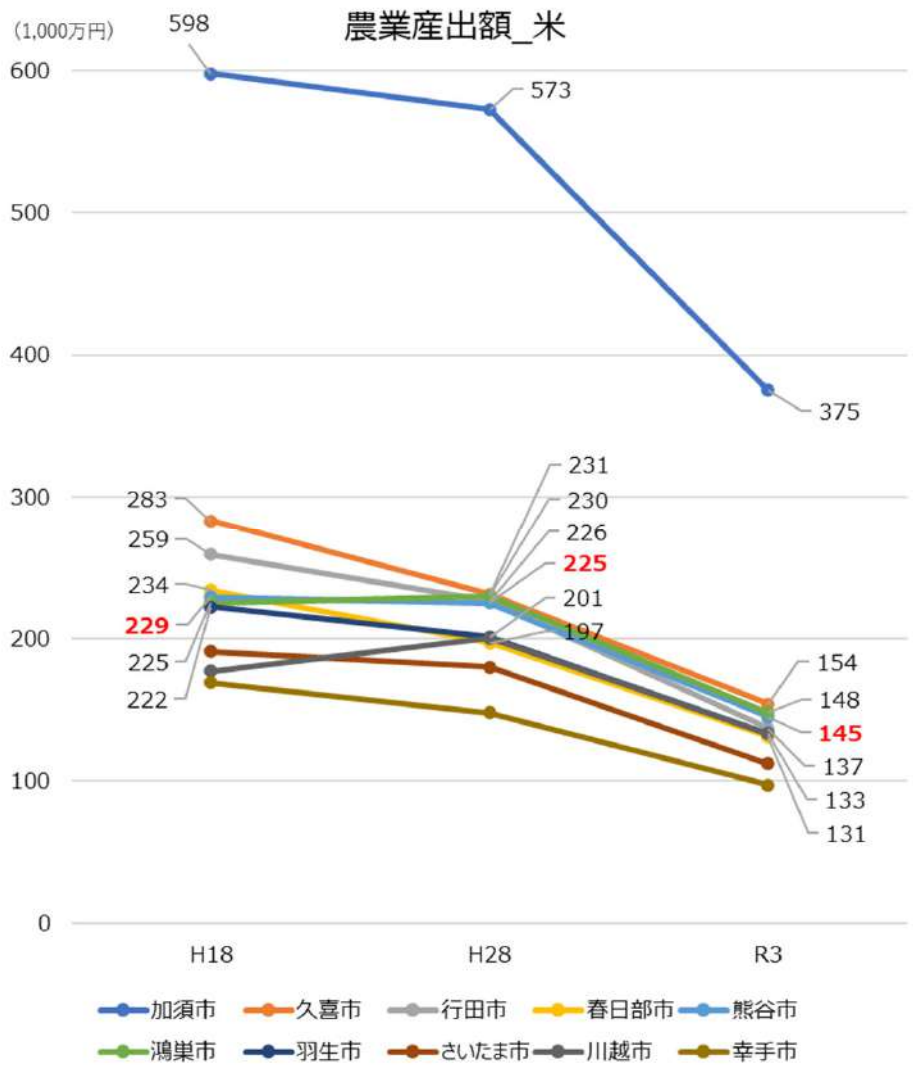
農業産出額_総計　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
深谷市	3,564	3,625	2,888
加須市	1,199	1,016	697
熊谷市	1,161	1,012	630
本庄市	877	997	1,090
川越市	786	1,193	648
さいたま市	784	1,086	975
鴻巣市	720	556	369
久喜市	676	501	310
所沢市	595	836	534
行田市	484	374	227

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

②　米

- 米の農業産出額は平成18年度は22.9億円と県内第5位、平成28年度は22.5億円と県内第5位、令和3年度は14.5億円と県内第4位となっている



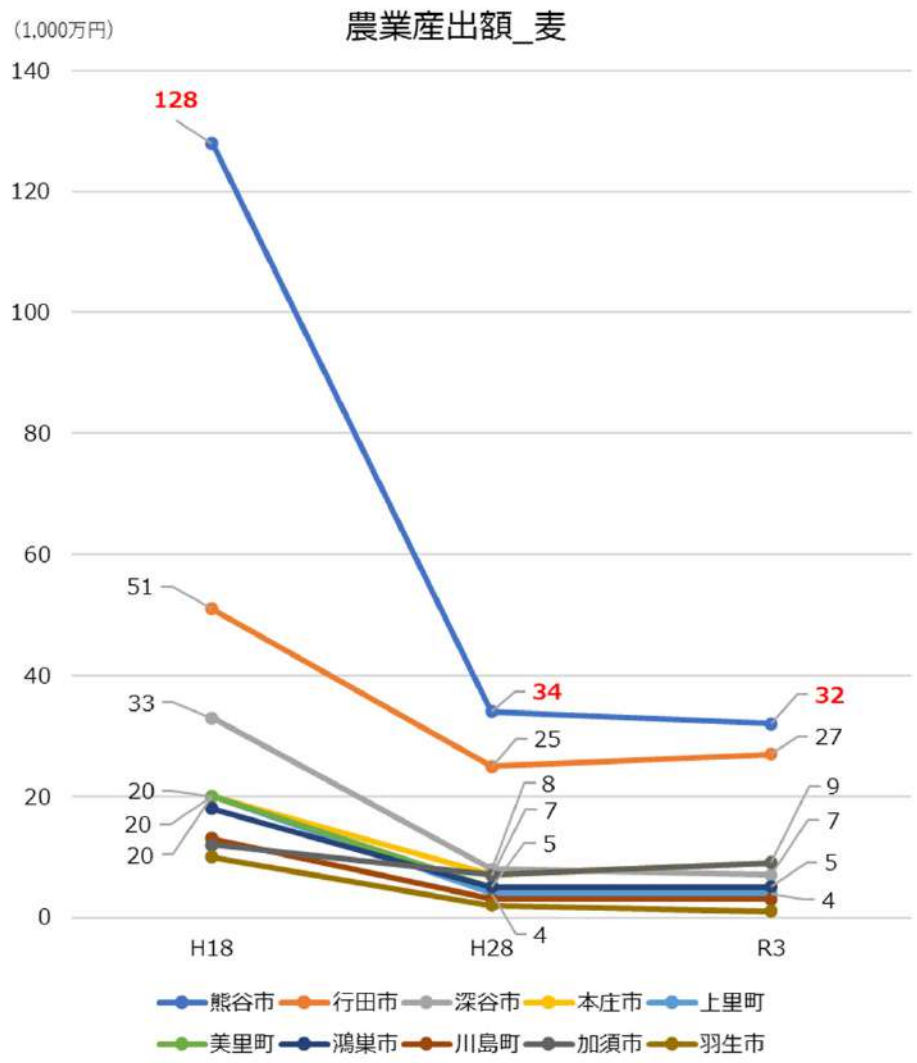
農業産出額_米　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
加須市	598	573	375
久喜市	283	231	154
行田市	259	226	137
春日部市	234	197	131
熊谷市	229	225	145
鴻巣市	225	230	148
羽生市	222	201	133
さいたま市	191	180	112
川越市	177	200	133
幸手市	169	148	97

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

③　麦

- 麦の農業産出額は平成18年度は12.8億円と県内第1位、平成28年度は3.4億円と県内第1位、令和3年度は3.2億円と県内第1位となっている



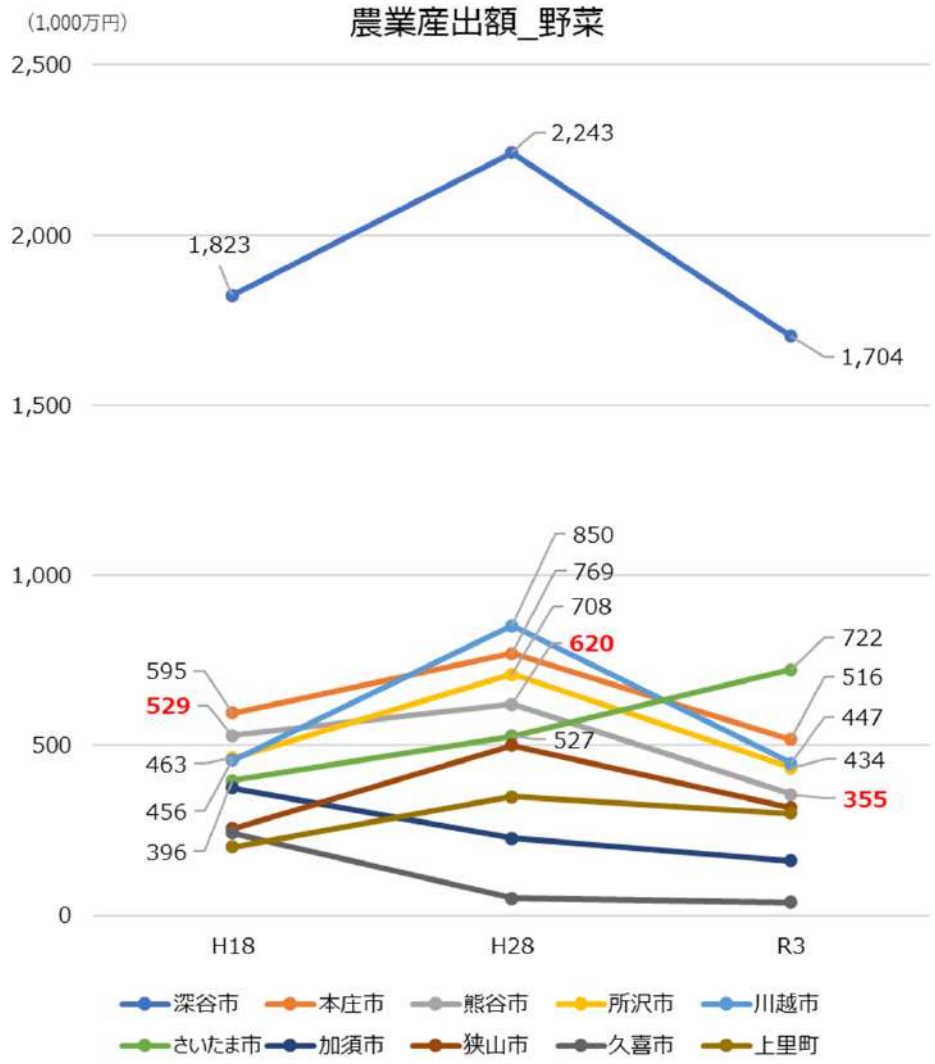
農業産出額_麦　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
熊谷市	128	34	32
行田市	51	25	27
深谷市	33	8	7
本庄市	20	7	9
上里町	20	4	4
美里町	20	5	5
鴻巣市	18	5	5
川島町	13	3	3
加須市	12	7	9
羽生市	10	2	1

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

④　野菜

- 野菜の農業産出額は平成18年度は52.9億円と県内第3位、平成28年度は62.0億円と県内第5位、令和3年度は35.5億円と県内第6位となっている



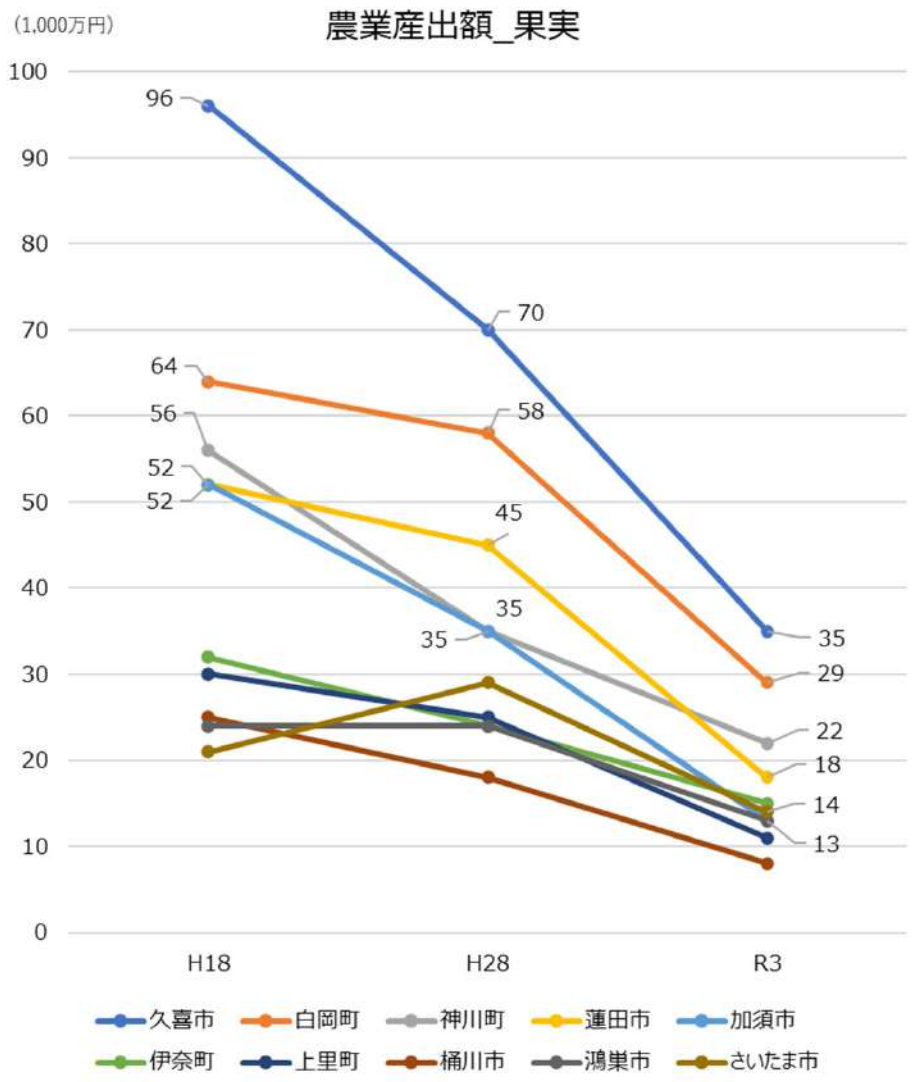
農業産出額_野菜　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
深谷市	1,823	2,243	1,704
本庄市	595	769	516
熊谷市	529	620	355
所沢市	463	708	434
川越市	456	850	447
さいたま市	396	527	722
加須市	374	226	160
狭山市	256	499	317
久喜市	242	50	39
上里町	201	349	299

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

⑤　果実

- 果実の農業産出額は平成18年度は0.7億円と県内第24位、平成28年度は1.2億円と県内第20位、令和3年度は1.8億円と県内第6位となっている



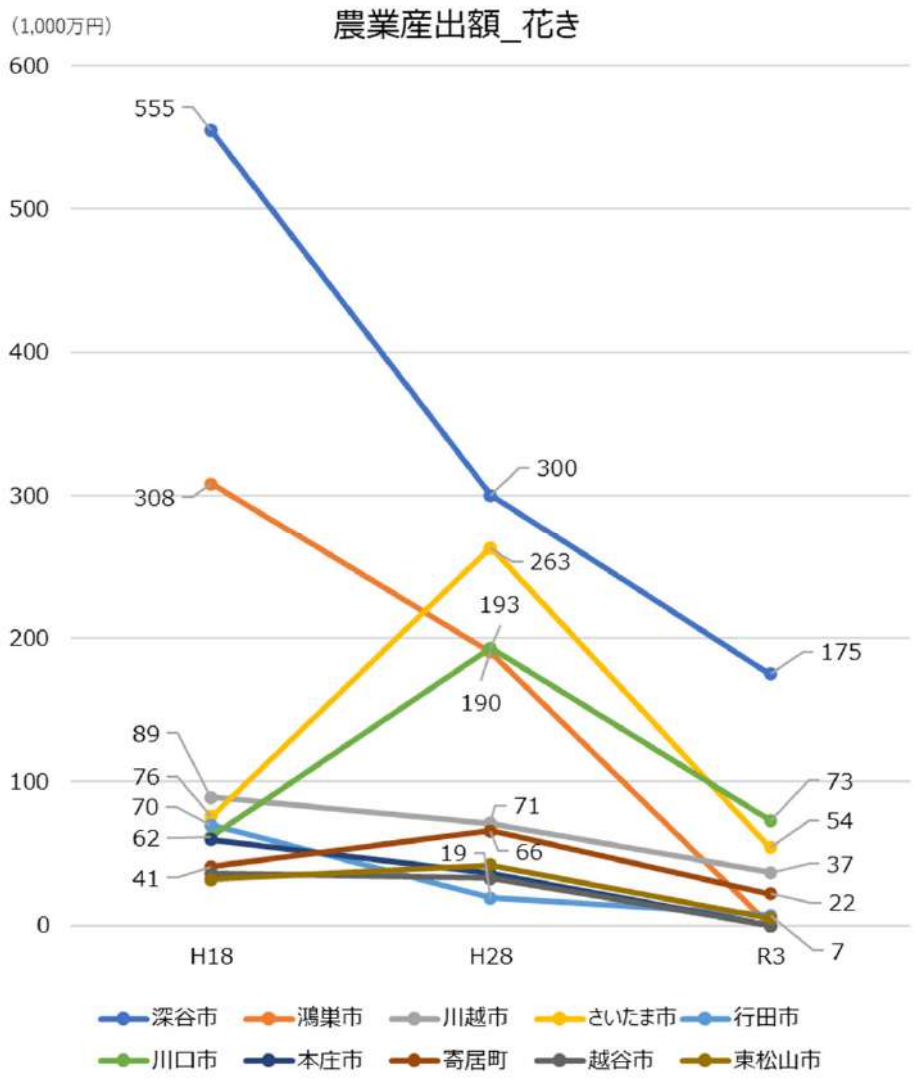
農業産出額_果実　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
久喜市	96	70	35
白岡町	64	58	29
神川町	56	35	22
蓮田市	52	45	18
加須市	52	35	13
伊奈町	32	24	15
上里町	30	25	11
桶川市	25	18	8
鴻巣市	24	24	13
さいたま市	21	29	14
熊谷市	2	13	18

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

⑥　花き

- 花きの農業産出額は10位ランク外にあり、平成18年度は1.6億円と県内第20位、平成28年度は1.2億円と県内第25位となっている（令和3年度はデータ未公開）



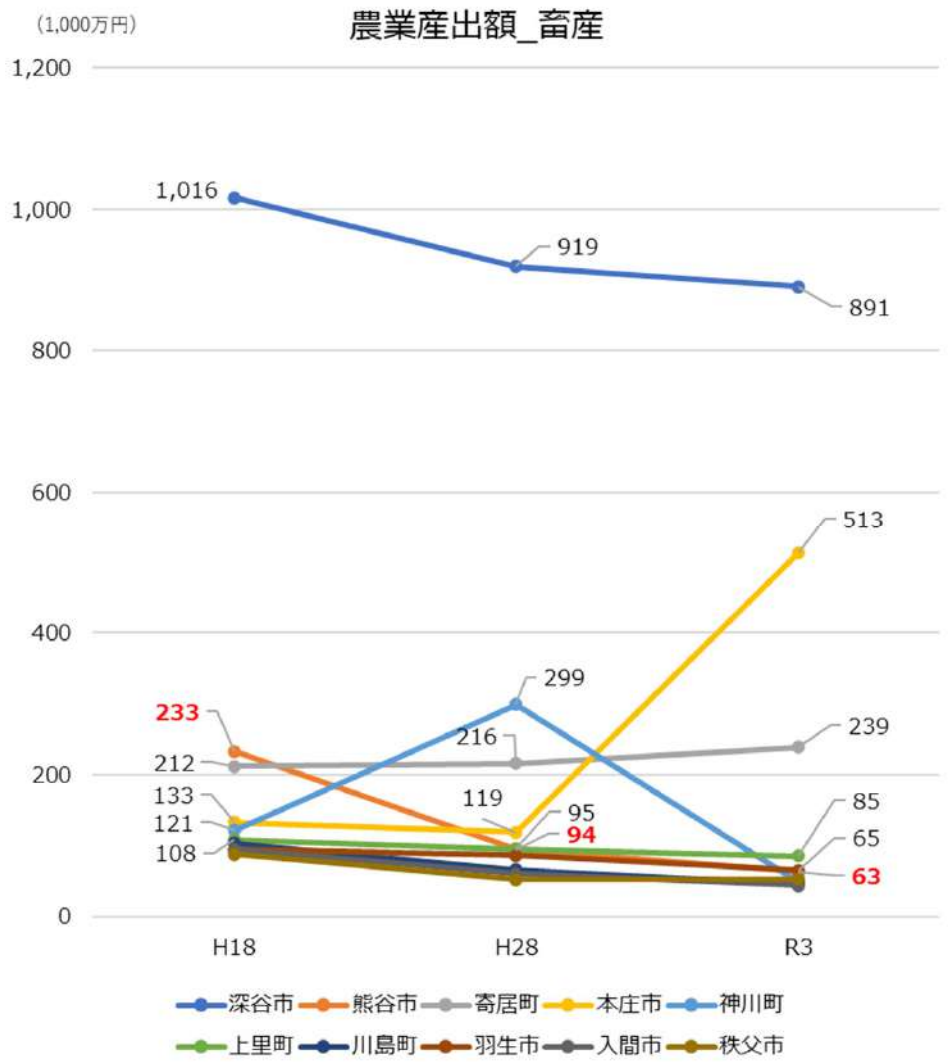
農業産出額_花き　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
深谷市	555	300	175
鴻巣市	308	190	x
川越市	89	71	37
さいたま市	76	263	54
行田市	70	19	7
川口市	62	193	73
本庄市	60	36	x
寄居町	41	66	22
越谷市	36	33	x
東松山市	32	42	5

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

⑦　畜産

- 畜産の農業産出額は平成18年度は22.3億円と県内第2位、平成28年度は9.4億円と県内第7位、令和3年度は6.3億円と第8位なっている



農業産出額_畜産　(1,000万円)

市町村	H18	H28	R3
深谷市	1,016	919	891
熊谷市	233	94	63
寄居町	212	216	239
本庄市	133	119	513
神川町	121	299	49
上里町	108	95	85
川島町	103	66	46
羽生市	94	86	65
入間市	94	60	44
秩父市	88	52	53

出典：生産農業所得統計（農林水産省）より

参　考

● 『仮称道の駅「くまがや」隣接地導入機能調査に伴う卸売市場の経営計画検討業務』において、**熊谷市の地域資源を活用した農業振興の可能性**を整理（以下、抜粋）

- 道の駅並びに隣接地は池上ほ場整備事業における非農地に位置し、整備されたほ場における新たな視点での農業振興を進め、市場、道の駅との連携を果たすことで、更なる相乗効果を生むことが想定される。

① 米、麦、大豆、菜種などの生産振興

- 米の転作としてではなく、本市の特長を活かした取組みとして、新たな**米、麦、大豆、菜種などの生産振興**を図る。
- 上記の農産物を使った、本市独自の商品開発を行い、**熊谷オリジナルブランド**として道の駅をはじめ、市内外での販路拡大を進める。

② 県オリジナルいちご品種の生産振興

- 園芸用大型ハウスを活用した、県オリジナルいちご品種**「かおりん」「あまりん」の大規模栽培による産地化**。
- 上記いちご品種を使った新商品開発を行い、熊谷オリジナルブランドとして道の駅をはじめ、市内外での販路拡大を進める。

③ スポーツとの連携を通した農業振興

- 実業団等の現役選手の就労の場、リタイアした選手のセカンドキャリアの場として農業参画。
- 市内の**農業法人の「埼玉アスサポ」への登録促進。**
- アスリートのトレーニングの一つとして農作業を取り入れることで、就労とトレーニングの両立を図る。

④ 大学校、研究センターとの連携を通した農業振興

- **埼玉県農業大学校、埼玉県農業技術研究センター**と連携を図り、新規就農者のための研修ほ場としての活用、新たな県オリジナル品種の先行的な栽培ほ場として活用を図る。

米 → 米粉専用米（ミズホチカラ）、酒造好適米（さけ武蔵）業務用米（ふくまる）

麦 → 熊谷うどん、クラフトビール（大麦、小麦）古代小麦（グルテンアレルギー対応）

大豆 → 在来種（県内29種）、代替ミート

菜種 → 米澤製油㈱

ミガキイチゴ/㈱GRA(山元町)

越谷いちごタウン

フレッサ福岡/イチゴ/ハンドボール

沖縄SV/コーヒー/サッカー

次世代施設園芸施設

岡崎市と県立農業大学校との包括連携

©2022株式会社まちづくり熊谷　無断転載・引用禁止

(2) 商業の状況

- 市町村別の年間商品販売額(令和3年)を見ると、熊谷市は第5位、卸売業では第3位、小売業では第8位
- 食料・飲料卸売業では第3位、農畜産物・水産物卸売業では第7位

【年間商品販売額】 (百万円)

順位	市町村名	年間商品販売額	構成比
1	さいたま市	5,221,818	31.4%
2	川口市	1,015,680	6.1%
3	越谷市	778,909	4.7%
4	川越市	736,297	4.4%
5	熊谷市	679,245	4.1%
6	上尾市	667,705	4.0%
7	戸田市	592,678	3.6%
8	所沢市	523,043	3.1%
9	草加市	458,808	2.8%
10	三郷市	365,258	2.2%

【卸売業】 (百万円)

順位	市町村名	年間商品販売額	構成比
1	さいたま市	3,898,686	39.5%
2	川口市	576,578	5.8%
3	熊谷市	461,385	4.7%
4	戸田市	448,099	4.5%
5	川越市	407,193	4.1%
6	越谷市	402,839	4.1%
7	上尾市	325,386	3.3%
8	草加市	247,437	2.5%
9	八潮市	225,325	2.3%
10	所沢市	216,706	2.2%

【小売業】 (百万円)

順位	市町村名	年間商品販売額	構成比
1	さいたま市	1,323,132	19.5%
2	川口市	439,102	6.5%
3	越谷市	376,070	5.5%
4	上尾市	342,319	5.0%
5	川越市	329,104	4.9%
6	所沢市	306,337	4.5%
7	春日部市	222,158	3.3%
8	熊谷市	217,859	3.2%
9	草加市	211,371	3.1%
10	久喜市	172,346	2.5%

【卸売業/農畜産物・水産物】 (百万円)

順位	市町村名	年間商品販売額	構成比
1	さいたま市	214,844	27.4%
2	戸田市	205,678	26.2%
3	朝霞市	63,243	8.1%
4	川越市	52,613	6.7%
5	越谷市	43,493	5.5%
6	川口市	37,821	4.8%
7	熊谷市	24,882	3.2%
8	上尾市	20,704	2.6%
9	草加市	18,933	2.4%
10	所沢市	13,227	1.7%

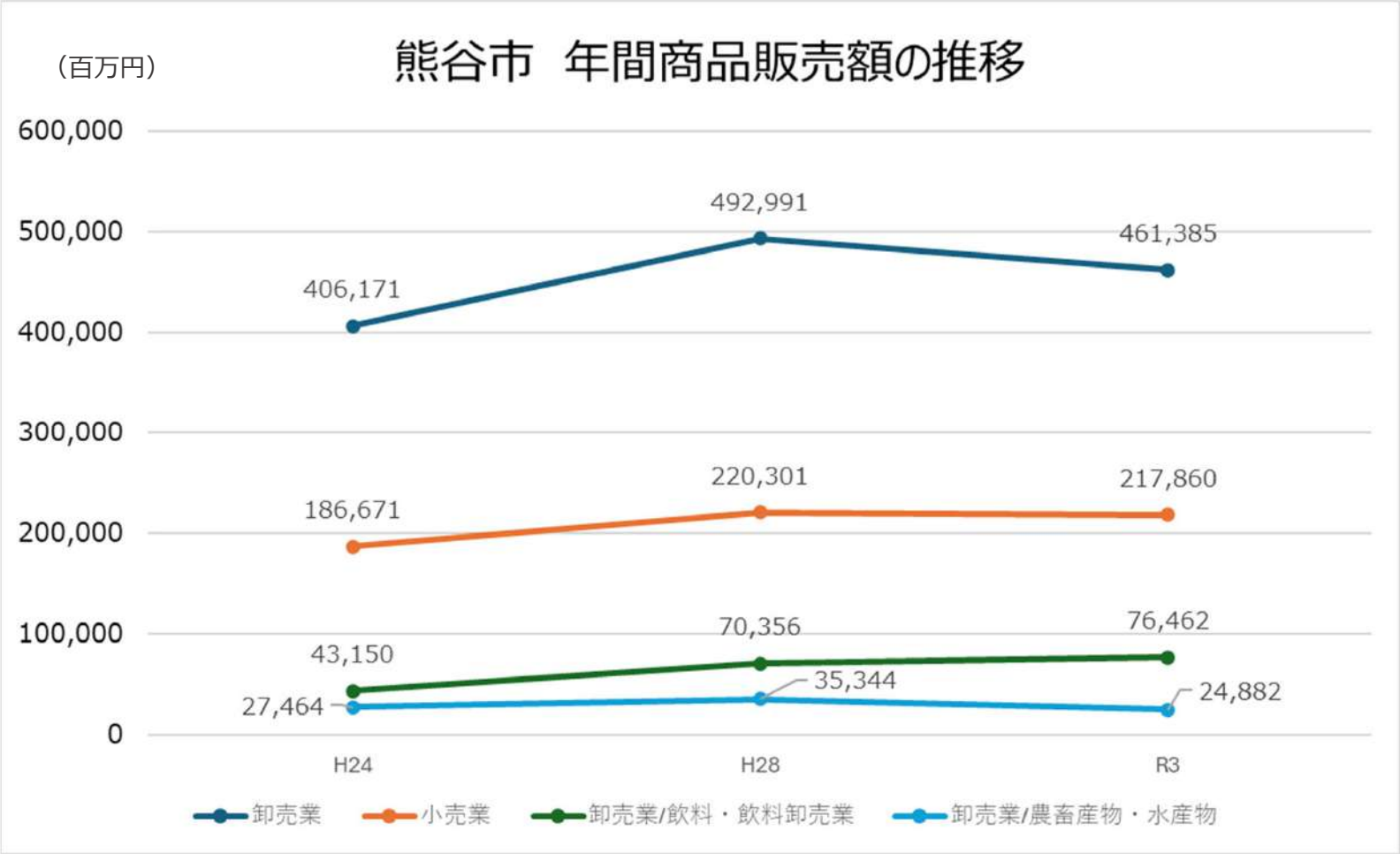
【卸売業/食料・飲料卸売業】 (百万円)

順位	市町村名	年間商品販売額	構成比
1	さいたま市	1,013,110	66.5%
2	川口市	88,519	5.8%
3	熊谷市	76,462	5.0%
4	戸田市	42,407	2.8%
5	新座市	32,105	2.1%
6	上尾市	30,221	2.0%
7	春日部市	26,921	1.8%
8	八潮市	25,252	1.7%
9	川越市	22,826	1.5%
10	所沢市	19,873	1.3%

出典：「R3年経済センサス活動調査」
経済産業省より

（2） 商業の状況

- 卸売業全体では、H28年からR3年で減少している
- 飲料・飲料卸売業は増加しているが、農畜産物・水産物は減少している



出典：「R3年経済センサス活動調査」
経済産業省より

(3) 工業の状況

- 北部地域は、事業所数、製造品出荷等、粗付加価値額ともに10～15%を占める
- 熊谷市は、事業所数は第7位、、製造品出荷等は第10位、粗付加価値額は第14位

【地域別にみた、事業所数、製造品出荷額等、粗付加価値額】

		事業所数	製造品出荷額等（万円）	粗付加価値額（万円）
東部地域	数値	228	59,174,802	20,712,406
	構成比	29.6%	32.8%	27.2%
中央地域	数値	207	42,948,984	19,478,409
	構成比	26.9%	23.8%	25.6%
北部地域	数値	94	23,916,593	10,896,165
	構成比	12.2%	13.2%	14.3%
西部地域	数値	226	54,261,532	24,798,842
	構成比	29.4%	30.0%	32.6%
秩父地域	数値	15	316,374	145,397
	構成比	1.9%	0.2%	0.2%
合計	数値	770	180,618,285	76,031,219
	構成比	100.0%	100.0%	100.0%

【市町村別にみた事業所数】

順位	市町村名	事業所数	構成比
1	さいたま市	63	8.2%
2	川越市	54	7.0%
3	深谷市	41	5.3%
4	戸田市	37	4.8%
5	八潮市	37	4.8%
6	川口市	36	4.7%
7	熊谷市	33	4.3%
8	所沢市	31	4.0%
9	草加市	31	4.0%
10	狭山市	28	3.6%

【市町村別にみた粗付加価値額】 (万円)

順位	市町村名	粗付加価値額	構成比
1	さいたま市	10,831,794	14.2%
2	狭山市	6,224,811	8.2%
3	深谷市	4,424,730	5.8%
4	本庄市	3,944,764	5.2%
5	戸田市	3,728,299	4.9%
6	川越市	3,700,312	4.9%
7	所沢市	3,565,865	4.7%
8	加須市	3,400,559	4.5%
9	越谷市	2,946,266	3.9%
10	春日部市	2,831,176	3.7%
11	日高市	2,827,211	3.7%
12	久喜市	2,731,179	3.6%
13	八潮市	2,692,066	3.5%
14	熊谷市	2,526,671	3.3%
15	東松山市	2,402,486	3.2%

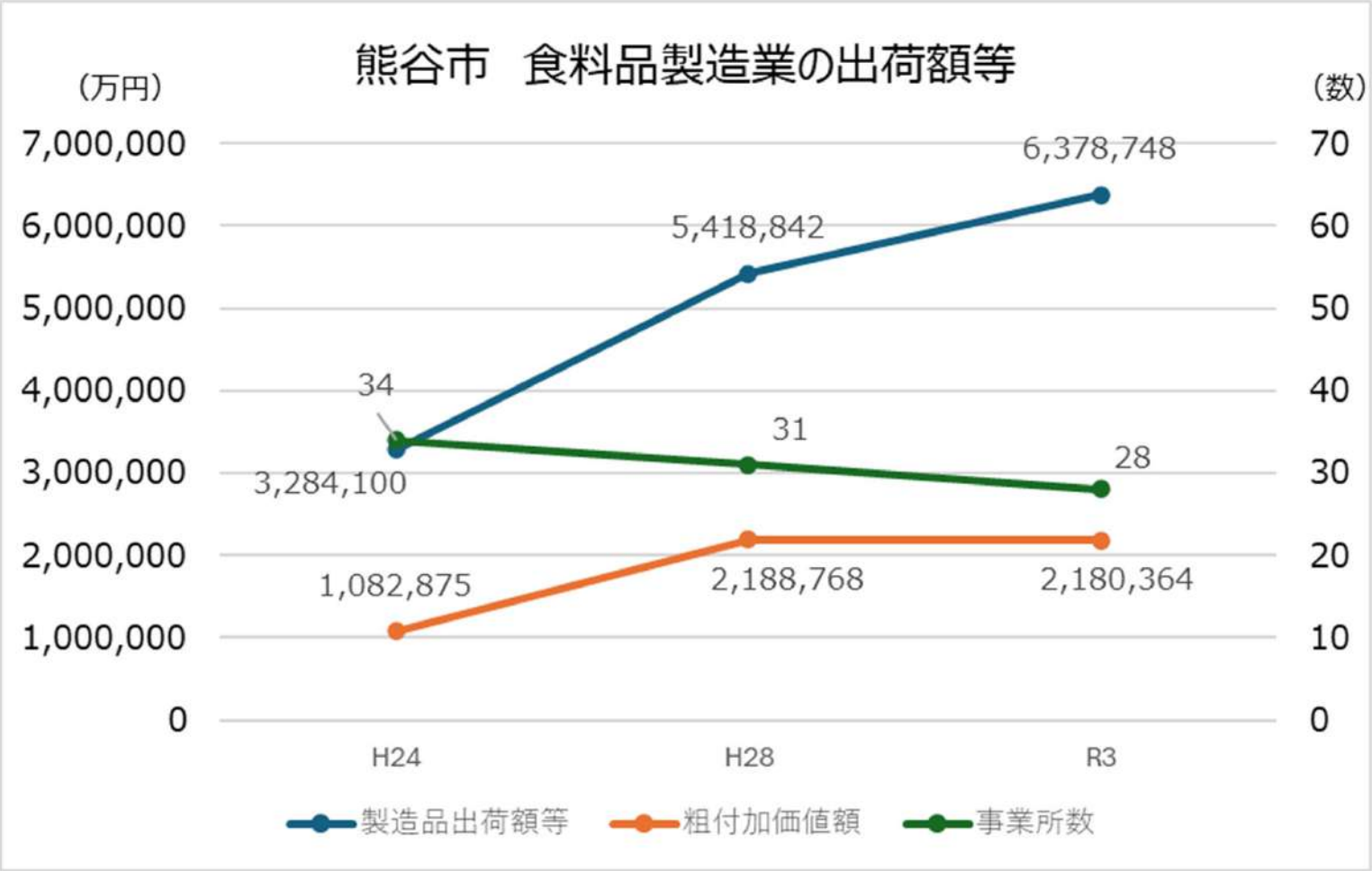
【市町村別にみた製造品出荷額等】 (万円)

順位	市町村名	製造品出荷額等	構成比
1	さいたま市	22,139,046	12.3%
2	狭山市	11,406,853	6.3%
3	深谷市	9,404,888	5.2%
4	久喜市	9,219,772	5.1%
5	川越市	9,136,402	5.1%
6	加須市	9,060,027	5.0%
7	春日部市	8,518,703	4.7%
8	八潮市	8,068,965	4.5%
9	本庄市	7,304,102	4.0%
10	熊谷市	7,207,603	4.0%

出典：「H28経済センサス活動調査」
経済産業省より

（3）工業の状況（食料品製造業）

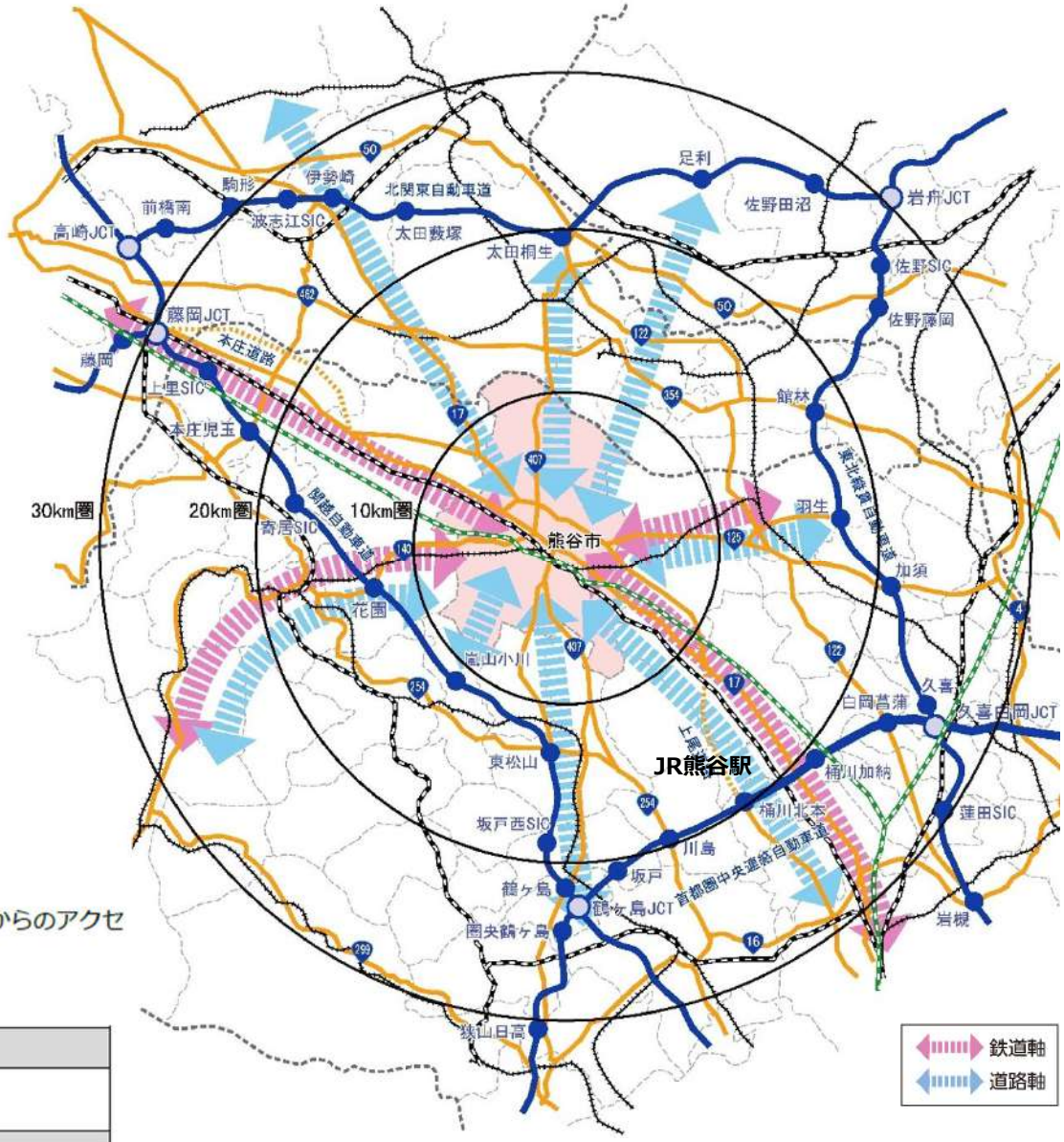
- 食品製造業における、製造品出荷額と粗付加価値額は、Ｈ24年から約2倍に増加している
- 事業所数は減少していることから、一事業所当たりの製造品出荷額は増加しているといえる



出典：「R3年経済センサス活動調査」
経済産業省より

(4) 熊谷の物流に関わるポテンシャル

- 道路網は、関越自動車道、首都圏中央連絡自動車道をはじめ4つの高速道路のインターチェンジまで30分という好立地にあり、市内は、首都圏と日本海側を結ぶ国道17号熊谷バイパスが通っており、道路交通の要所としての優位性が高い
- JR熊谷駅は上越・北陸新幹線の発着があるほか、JR高崎線に、JR熊谷貨物ターミナル駅があり、全国各地の貨物の拠点となっている
- 産業振興の推進においても広域道路ネットワークの強化を目指している



エ　産業を支える交通環境の形成

(基本方針)

産業振興をまちづくりの観点から推進するため、企業立地の優位性や市外からのアクセス性等を高める広域道路ネットワークの強化を目指します。

(施策の方向)

①広域道路ネットワークの強化
高速道路インターチェンジ等につながる広域道路の整備を国や県に要請します。
②熊谷渋川連絡道路の整備促進
地域高規格道路熊谷渋川連絡道路の早期着手に向け、国や県に要請します。

出典：「熊谷市総合振興計画後期基本計画」熊谷市より

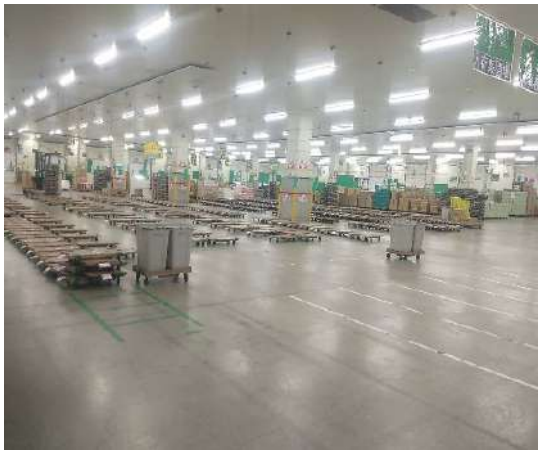
（4） 熊谷の物流に関わるポテンシャル

【参考】全国的な物流センターの拡大

- 横浜南部市場において、卸売市場流通モデルとして、卸売市場が抱える、多様な取引方法、鮮度保持物流、生産地の大型化、小売店の大型化及び付加価値サービス機能への対応等の課題に対応して効率的な物流体制を整備
- 横浜ロジスティクス株式会社（横浜市中央卸売市場の卸売会社である横浜丸中青果株式会社と仲卸業者、運送会社等が共同出資）が、冷凍・冷蔵・常温の３温度帯を同時に管理し配送機能を備えた「横浜フレッシュセンター」を整備
- 第1フレッシュセンターは、５階建て、冷蔵庫棟と冷凍自動ラック棟で構成され、冷蔵倉庫棟への荷物の入出庫は、1階に設置したＬ型バース方式として、入庫用、出庫用に各１台の垂直搬送機と荷物用エレベーターを設置し荷物を移動している

第1フレッシュセンター（冷蔵庫、自動倉庫機能を備える）

自動倉庫


第２フレッシュセンター

出典：野菜流通カット協議会資料より

(4) 熊谷の物流に関わるポテンシャル

- 熊谷市は、首都圏と北陸、東北を結ぶ道路交通ネットワークに加え北海道と首都圏を結ぶJR貨物の拠点ターミナルを有していることから、2024年の物流問題や物流の安定化、円滑化を進めるための、モーダルコンビネーションによる、総合的な物流拠点としての優位性が高い

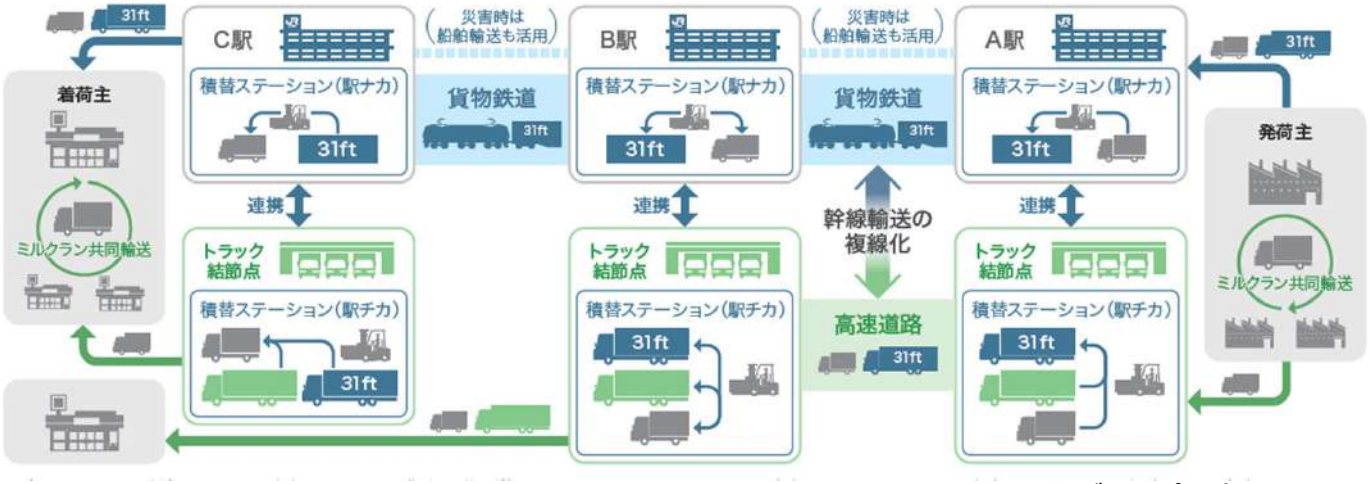
モード間の物流協力「モーダルコンビネーション」

この2024年問題の解決に向けて、「モーダルコンビネーション」への期待が高まっています。トラック輸送と鉄道輸送、さらには船舶輸送や航空輸送までを含めた全ての輸送モードが、それぞれの得意とする機能を最大限に発揮しながら連携し、物流の効率化・円滑化を目指すものです。

例えば、少量の近距離輸送は柔軟性があるトラック輸送が担い、大量長距離輸送は労働生産性の高い鉄道や船舶で輸送します。一方、高い速達性が求められるものは航空で一気に輸送するなど、各モードの特性を生かし、競い合う関係から協力する関係へと進化した物流体系を構築することで、持続可能な物流が実現できると考えています。

「物流の2024年問題」の解決に向けて「モーダルコンビネーション」は有効な手段であり、貨物鉄道輸送を担う当社は、まずはトラック輸送との親和性向上に力を入れながら、取組みを進めています。

■モーダルコンビネーションの概念図

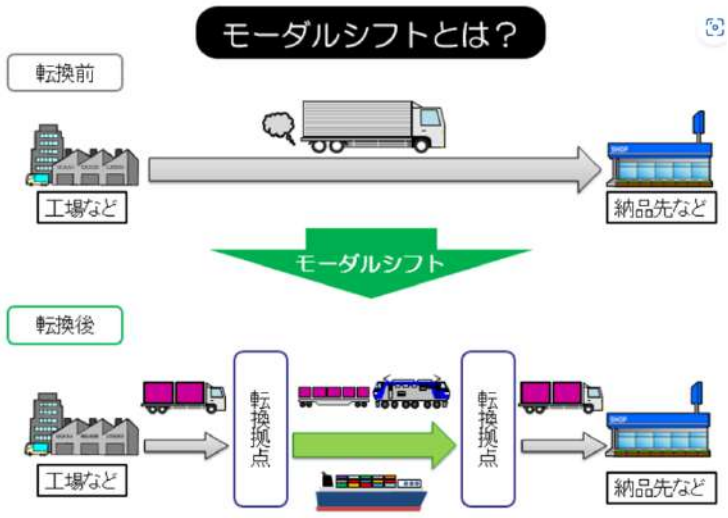


出典：「JR貨物グループレポート2023」JR貨物グループより

(4) 熊谷の物流に関わるポテンシャル

- 鉄道における物流の面では、JR熊谷貨物ターミナル駅は、北海道と熊谷を結ぶ農作物輸送の専用列車が運行されるなど、鉄道貨物による拠点としての役割を担っている
- JR熊谷貨物ターミナル駅は、2024年の物流問題や環境負荷低減の面から、モーダルシフトによって物流の効率化や安定化に寄与する可能性を持つ

注）モーダルシフトとは、トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること



出典：国土交通省ホームページ

地域のライフライン・産業を支えています

地域の産業、農業への貢献

北海道北見市でのタマネギ積み込み風景

北海道地区で生産される多くの農産品を鉄道で全国各地に輸送しており、特に道外に出荷されるタマネギは約6割、馬鈴薯は約4割を貨物鉄道輸送が担っています。JR貨物では、毎年8月から翌年4月にかけて、タマネギ生産量日本一を誇る北見市の北見駅と北旭川駅を結ぶ貨物列車を1日1往復運転しています。積載している計55個のコンテナ（275トンの貨物）の大半がタマネギであることから「タマネギ列車」の愛称で親しまれています。

また、毎年9月頃の約3週間、帯広貨物駅と埼玉県の熊谷貨物ターミナル駅を結ぶ馬鈴薯の専用列車を1日1往復運行し、計100個のコンテナ（500トンの貨物）を輸送しています。このように、貨物鉄道輸送は北海道の農業を輸送面から下支えしており、北海道経済の活性化のみならず、安定的に生鮮食料品を全国に供給するライフラインとして極めて重要な役割を果たしています。

出典：「JR貨物グループレポート2023」JR貨物グループより